

世羅町まち・ひと・しごと創生総合戦略  
(平成27年度～令和2年度)

**総合評価**

令和3年9月  
広島県 世羅町

# 目次

第1章 序論.....	1
1 はじめに.....	1
2 取組内容.....	1
3 評価方法.....	2
4 令和2年度スケジュール.....	2
5 実績.....	2
第2章 評価・検証.....	5
1 数値目標、重要業績評価指標の評価の方法と評価区分.....	5
2 総合評価.....	6
3 基本目標ごとの実績値の評価.....	8
(1) 基本目標Ⅰ「世羅ブランドの確立を図り仕事の間を創出する」.....	8
(2) 基本目標Ⅱ 世羅町の魅力と立地を活かし新たな人を呼び込む.....	11
(3) 基本目標Ⅲ 結婚・妊娠・出産から子育てまで充実した生活環境を提供する.....	14
(4) 基本目標Ⅳ 誰もが安心して暮らせるまちの生活基盤を整備する.....	17
4 数値目標、重要評価指標実績値及び評価一覧表.....	22

# 第1章 序論

## 1 はじめに

平成27年度策定の世羅町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「第1次総合戦略」という。）の計画期間満了により、数値目標（KGI）及び重要業績評価指標（KPI）の実績値から、計画の評価を行った。

	年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	...	
第1次総合戦略	計画期間	→								
	評価・検証									
第2次総合戦略※	計画期間							→		
	評価・検証									

※令和2年度策定の世羅町第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「第2次総合戦略」という。）

<評価指標について>

### 【数値目標（KGI）】

総合戦略の4つの基本目標それぞれに立てられた目標であり、人口減少問題を克服・適応し、地域に活力を生み出していることを測るための指標。全7項目設定している。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

各基本目標の「数値目標」を達成するため、基本目標に結び付く具体的な取組に目標値を設定したもの。全37項目設定している。

## 2 取組内容

第1次総合戦略の着実な推進を図るため、毎年度効果検証を行いPDCAサイクルを実施している。

総合戦略事業について、「まちづくりに係る住民ワーキング会議」において住民の方と町職員によるワークショップ形式による意見交換を行い事業評価していただき、総合戦略事業及び交付金事業について、外部組織である「世羅町総合戦略推進会議」及び「世羅町議会全員協議会」において、基本目標毎の重要業績評価指標（KPI）、事業の進捗状況などにより外部評価を行い、評価の妥当性、客観性を担保したうえで、施策の見直しや改善を行い、総合戦略の実効性を高めてきた。

### 3 評価方法

P (プラン) : 第1次総合戦略

D (計画の実施) : 施策、事業の実施

C (評価) : ①自己評価  
 ・行政による評価、分析  
 ②外部評価  
 ・まちづくりに係る住民ワーキング会議  
 ・世羅町総合戦略推進会議  
 ・世羅町議会全員協議会

A (見直し) : 評価結果に基づき、次年度予算、施策展開に反映

### 4 令和2年度スケジュール

#### ●効果検証

時期	項目	概要
～5月	自己評価（行政による評価・検証）	実施事業の評価、KPIによる検証
5月～6月	外部評価（住民による評価・検証）	住民による意見集約（書面審議）
8月	外部評価（委員による評価・検証）	総合戦略推進会議による意見集約
9月	外部評価（議員による評価・検証）	議会全員協議会による意見集約

#### ●第2次総合戦略策定

時期	項目	概要
5月～2月	総合戦略推進会議	委員による意見集約
12月～2月	議会全員協議会	議員による意見集約
5月～2月	振興計画審議会	委員による意見集約
12月	パブリックコメント	住民による意見集約

### 5 実績

#### まちづくりに係る住民ワーキング会議

年度	日程	内容
平成29年度	8月1日	総合戦略平成28年度実施分の評価・検証について
平成30年度	7月2日	総合戦略平成29年度実施分の評価・検証について
令和元年度	6月27日	総合戦略平成30年度実施分の評価・検証について
令和2年度	5月29日	総合戦略令和元年度実施分の評価・検証について（書面協議）

世羅町総合戦略推進会議

年度	日程	内容
平成 29 年度	8 月 21 日	総合戦略平成 28 年度実施分の評価・検証について
平成 30 年度	8 月 7 日	総合戦略平成 29 年度実施分の評価・検証について
令和元年度	8 月 5 日	総合戦略平成 30 年度実施分の評価・検証について
令和 2 年度	5 月 14 日 (第 1 回) ※書面審議	・世羅町第 2 次まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針 ・長期総合計画などアンケート結果
	8 月 3 日 (第 2 回)	・長期総合計画などに関するアンケート調査の報告 ・総合戦略令和元年度実施分の評価・検証について
	10 月 5 日 (第 3 回)	・世羅町人口ビジョン改訂版について ・世羅町第 2 次まち・ひと・しごと創生総合戦略素案
	11 月 10 日 (第 4 回)	・世羅町人口ビジョン改訂版について ・世羅町第 2 次まち・ひと・しごと創生総合戦略計画案
	2 月 1 日 (第 5 回) ※書面審議	・世羅町人口ビジョン及び世羅町第 2 次まち・ひと・しごと創生総合戦略
令和 3 年度	7 月 16 日	・6 年間の総合評価

世羅町議会全員協議会

年度	日程	内容
平成 29 年度	9 月 1 日	総合戦略平成 28 年度実施分の評価・検証について
平成 30 年度	8 月 30 日	総合戦略平成 29 年度実施分の評価・検証について
令和元年度	9 月 2 日	総合戦略平成 30 年度実施分の評価・検証について
令和 2 年度	9 月 2 日	総合戦略令和元年度実施分の評価・検証について
	12 月 2 日	・世羅町人口ビジョン改訂版について ・世羅町第 2 次まち・ひと・しごと創生総合戦略計画案
	2 月 24 日	・世羅町人口ビジョン及び世羅町第 2 次まち・ひと・しごと創生総合戦略
令和 3 年度	9 月 2 日	・6 年間の総合評価

世羅町振興計画審議会

年度	日程	内容
令和2年度	5/14 ※書面審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世羅町第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針</li> <li>・長期総合計画などアンケート結果</li> </ul>
	10月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世羅町人口ビジョン改訂版について</li> <li>・世羅町第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略素案</li> </ul>
	11月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世羅町人口ビジョン改訂版について</li> <li>・世羅町第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略計画案</li> </ul>
	2月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世羅町人口ビジョン及び世羅町第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略</li> </ul>

パブリックコメント

年度	日程	内容
令和2年度	12/1～ 12/28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世羅町人口ビジョン改訂版について</li> <li>・世羅町第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略計画案</li> </ul>

## 第2章 評価・検証

### 1 数値目標、重要業績評価指標の評価の方法と評価区分

数値目標（KGI）及び重要業績評価指標（KPI）については、以下の要領で評価した。

集計時点の状況に影響されてしまう指標があり、最終年度の実績だけでは傾向を捉えられず総合的な評価をするのが難しい項目もあることから、「6年間の実績の平均値」を評価値とすることを基本に、目標値に対する達成度によりA、B、C、Dの4段階で評価した。

#### （1）目標に対する状況

<目標値に対する実績値の評価>

- ・期間中（H27～R2）実績値の平均値
- ・ただし、延べ数や累計で測るものは最終年度数値

<達成率>

目標が「単年実績」の達成率 =  $\frac{\text{「6年間の実績の平均」}}{\text{「目標値」}}$

目標が「延べ数実績」の達成率 =  $\frac{\text{「最終年度数値」}}{\text{「目標値」}}$

区分	評価基準
A 【100% ≤ 達成率】	目標値を達成することができたもの
B 【70% ≤ 達成率 < 100%】	目標値は達成できなかったが、概ね成果がみられたもの
C 【30% ≤ 達成率 < 70%】	目標値は達成できなかったが、着実に成果がみられたもの
D 【達成率 < 30%】	実績値が基準値以下であり、引き続き一層の努力が必要となるもの

※但し

1. 端数は小数点以下四捨五入
2. 年によって集計していない場合は、除外して算出した

## 2 総合評価

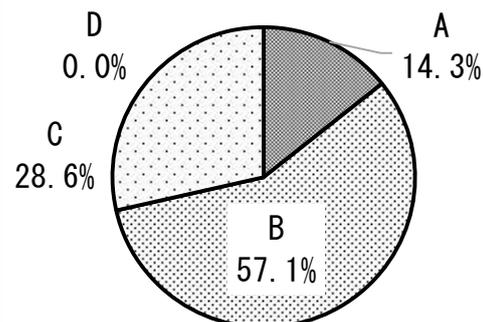
「数値目標（KGI）」及び「重要業績評価指標（KPI）」全44項目の基準値に対する実績の状況を示すことで総合評価とした。

### （1）目標に対する状況の結果

＜目標値に対する実績値の評価＞

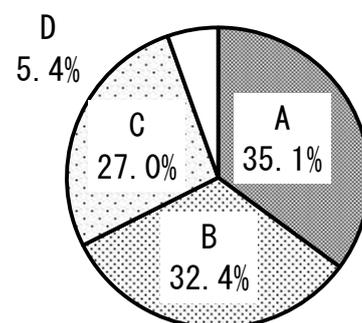
#### 【数値目標（KGI）】

区分	項目
A 【100% ≤ 達成率】	1項目（14.3%）
B 【70% ≤ 達成率 < 100%】	4項目（57.1%）
C 【30% ≤ 達成率 < 70%】	2項目（28.6%）
D 【達成率 < 30%】	0項目（0.0%）



#### 【重要業績評価指標（KPI）】

区分	項目
A 【100% ≤ 達成率】	13項目（35.1%）
B 【70% ≤ 達成率 < 100%】	12項目（32.4%）
C 【30% ≤ 達成率 < 70%】	10項目（27.0%）
D 【達成率 < 30%】	2項目（5.4%）



※端数処理の関係で百分率の和は必ずしも100%にはならない。以下同様。

## 【考察】

第1次総合戦略は、本町の実情を踏まえ、「人口減少と地域経済縮小の克服」という課題の解決に取り組むとともに、「まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立」という将来の発展をめざしてきた。

町人口の現状分析や将来展望を示す人口ビジョンを踏まえ、国の基本目標を踏まえた基本目標を設定するとともに、「まち・ひと・しごと」の3つの要素をバランス良く創生するためのパッケージ化された施策の企画・実行に努めてきた。

はじめに、4つの基本目標について、設定した数値目標（KGI）を達成できたものは7項目のうち1項目と少なかった。

次に、重要業績評価指標（KPI）については、目標値を達成したものが全体の3割強、目標値の達成には至らなかったが達成率70%以上のものが約3割、達成率30%以上70%未満のものが約3割弱となっており、全体として約7割の施策が達成率70%以上となっていることから、こちらは一定の評価はできる。

第2次総合戦略では、第1次総合戦略における4つの目標を踏襲しつつ、現状を整理したうえで4つの目標を改め施策・事業に取り組んでいくこととしている。今後、第1次総合戦略の実績・評価を踏まえ、今まで以上に危機感を持って取り組んでいく必要がある。

### 3 基本目標ごとの実績値の評価

#### (1) 基本目標Ⅰ 世羅ブランドの確立を図り仕事の間を創出する

##### 【評価と今後の方針】

###### 全体

全体の指標のうち 57.1%が目標値を上回り、着実に成果が表れている。

「町内総生産額」が基準年よりも向上したことは、「しごと」分野の好転の現れと考えることができる。一方で、ICT事業者の誘致に至った件数は伸び悩んでいる状況がある。

今後は、創業の円滑な事業展開促進の継続的な支援や、地元事業者支援や事業承継の促進を行うとともに、農業の担い手育成や観光振興に力を入れ、持続可能な地域の働く場の創出に努める。そのため生産年齢の人口についても実績を追う必要があるものと考え、第2次総合戦略では新たな指標を設定した。

###### 基本施策1 創業・事業承継支援、地元業者支援による地域産業の競争力強化

新型コロナウイルス感染症の影響によりブラッシュアップ事業などの実績は減少したが、ほとんどの事業で目標を達成し、創業・事業承継支援、地元業者支援による地域産業の競争力強化を図ることができた。

今後も円滑な事業展開を促進するため、創業時の経営基盤安定を目的とした支援を行う。また、関係機関と連携した相談支援を行う。

###### 基本施策2 企業誘致の促進

ICT事業者の誘致に至ることは難しく、実際に誘致に至った件数は伸び悩んでいる。しかし、企業立地支援に係る相談はあり、一定の成果を得た。

今後は、労働環境の意識の変化に柔軟に対応できるよう、ICT事業者の誘致やテレワーク・サテライトオフィスなどを含めた多様な働き方を推進し、町内で雇用機会の創出に努める。

###### 基本施策3 世羅ブランドの確立と観光振興

令和2年度の道の駅世羅の利用者数は、目標 620,000 人に対し 755,000 人と継続して目標を超える来客となった。緊急事態宣言などのコロナ対策により入込観光客数は減少したが、観光協会を中心とした町内観光施設の努力により、事業推進の成果が得られた結果となった。

今後、観光消費額の増加を図り、町内産業の活性化や雇用の創出、確保につなげるため施設整備を含めた観光振興事業を実施する。

###### 基本施策4 観光情報発信などを一元的に行う仕組みの構築

緊急事態宣言などのコロナ対策により入込観光客数は減少したが、6年平均での目標を達成できた。

今後、交流人口の拡大と観光客数の増加を図り、近隣市町との連携による旅行商品の魅力向上と効率的な観光プロモーションに努める。

基本施策5 良好な生産環境の保全と多様な資源の活用促進

農林業振興対策事業により、園芸作物の生産拡大や、鳥獣被害対策実施隊による活動で有害鳥獣被害の抑制に効果があった。

鳥獣被害の増加に伴い被害防止対策に取り組む農家が増えており、周知・啓発活動は継続して行うとともに、生産組合への活動支援も継続する。

基本施策6 農業の担い手育成と後継者の確保

目標までには達していないものの、計画期間の6年間で新規就農者の定着を図り、延べ38人となった。また、世羅産業創造大学の卒業者が認定新規就農者となって、地域の担い手としても精力的に活動し、後継者確保にもつながった。

今後も農業における将来の世羅町を担う人材を確保・育成するため、広島県などの関係機関で組織する世羅町担い手育成協議会と連携しつつ、独立・自営就農者や雇用就農者の育成に向けた栽培技術や経営管理能力などの教育カリキュラムを提供し支援する。

基本施策7 農業の6次産業化の推進

町の農業の6次産業化の推進のための基盤整備や重点支援事業者として認定された事業者へのサポート支援を行った。また、農業公園施設整備も交流事業などと連携し、整備を実施した。

今後も農産物の生産から加工・販売を一体的に展開し、新事業の創出を図ることで、農業事業者の所得向上や地域雇用の促進及び人材の確保を図る。

【数値目標の推移】

	基準値 (H24)	単年度 実績値 (H30)	実績値 (H25~H30)		目標値 (H30)	評価
			6年 平均	6年 延べ数		
町内総生産額	47,489 百万円 (40,734)	56,964 百万円 (48,861)	57,108 百万円 (48,985)	—	47,489 百万円以上 (40,734)	A

※平成24年度の町内総生産は、総合戦略策定時（平成27年度）には47,489百万円であったが、毎年度、遡って改訂されており、令和3年3月時点では40,734百万円である。

平成30年度の48,861百万円を約1.1658倍（=47,489/40,734）すると56,964百万円となる。6年平均も同様。

【KPIの推移】

	基準値 (H26)	単年度 実績値 (R2)	実績値 (H27～R2)		目標値 (R2)	評価
			6年 平均	6年 延べ数		
基本施策1 創業・事業承継支援、地元業者支援による地域産業の競争力強化						
創業支援者数（延べ数）	5件	18件	—	97件	81件	A
創業者数（延べ数）	—	6件	—	51件	51件	A
成果	創業支援など事業計画に基づいて支援を行った結果、新規創業者が増え、目標を達成することができた。					
企業立地奨励金交付対象企業数 (延べ数)	3件	1件	—	13件	5件	A
成果	企業立地奨励金交付対象企業数は年々増加し、企業誘致や既存企業の新設又は増設に係る支援を積極的に行ったことで、産業の振興と雇用創出の一助となった。					
事業承継支援者数（延べ数）	0件	2件	—	19件	19件	A
成果	人材育成事業・持続化支援事業で継続して支援を行ったことにより、事業承継支援者数は目標を達成し、経営の高度化や後継者育成が図られ、住民が事業を承継しやすい環境が向上した。					
基本施策2 企業誘致の促進						
企業誘致（ICT企業含む）件数 (延べ数)	0件	0件	—	5件	13件	C
成果	中国やまなみ街道を活かした企業誘致や世羅町の通信環境でのICT事業者誘致は困難な状況にあり、実績値は目標値の半数以下に留まっている。					
基本施策3 世羅ブランドの確立と観光振興						
世羅ブランド認証付与件数（延べ数）	0件	1件	—	22件	60件	C
成果	認証件数は目標に達していないが、世羅ブランドを紹介するホームページ開設や新しい販路も開拓でき、持続的な地域経済の活性化を図るための一助になっている。					
観光消費額	1,974 百万円	1,828 百万円	2,419 百万円	—	2,300 百万円	A
成果	6年平均での目標値には達したものの、令和3年4月現在、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、全国的に外出自粛の状況が続いており、観光消費額の大幅な減少は避けられない状況である。					
「道の駅 世羅」の利用者数	0人	75 万人	81.7 万人	—	62 万人	A
成果	目標値には達したものの、令和3年4月現在、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、全国的に外出自粛の状況が続いており、利用者数の大幅な減少は避けられな					

	い状況である。					
	基準値 (H26)	単年度 実績値 (R2)	実績値 (H27～R2)		目標値 (R2)	評価
			6年 平均	6年 延べ数		
基本施策4 観光情報発信などを一元的に行う仕組みの構築						
	入込観光客数	1,295 千人	1,423 千人	1,819 千人	—	1,690 千人
成果	観光協会 HP「セラナンデス」や SNS を活用したリアルタイムの情報発信により、6年平均での目標値には達したものの、令和3年4月現在、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、全国的に外出自粛の状況が続いており、入込観光客数の大幅な減少は避けられない状況である。					
基本施策5 良好な生産環境の保全と多様な資源の活用促進						
	ほ場の再整備面積（延べ数）	0ha	0ha	—	0ha	200ha
成果	西大田地区(賀茂東・堀越)において、令和2年度より区画整理事業（県営）が始まり令和7年度事業完了を目途に取り組んでいる。					
基本施策6 農業の担い手育成と後継者の確保						
	新規就農者数（延べ数）	9人	3人	—	38人	60人
成果	目標値には達していないものの、規模拡大や売上増を図る志の高い新規就農者を輩出した。					
	世羅産業創造大学卒業者数（延べ数）	3人	1人	—	14人	31人
成果	計画期間の6年間で、卒業者は14人となり認定新規就農者増加の一助となった。					
	認定農業者（認定新規就農者含む） （累計）	150人	0人	—	138人	210人
成果	高齢化や後継者不在により認定を更新されないケースもあり、目標値には至っていない。					
基本施策7 農業の6次産業化の推進						
	6次産業化（認定）支援件数（延べ数）	1件	1件	—	8件	2件
成果	総合化事業計画の認定を受けるための支援や認定後のサポートにより、目標値を達成し、農業の6次産業化の一助となった。					

#### 【世羅町総合戦略推進会議からの評価】

「評価できる」10人、「評価できない」0人、「無回答」1人
・創業支援や創業者数がA評価なのは、地元の商工会の周知が進んでいたり、セカンドキャリアを求めて創業したりを踏まえてだと思う。企業誘致は世の中に認知が必要。認定農業者は今後掘り起こしが必要。

- ・どの業種が伸びており、伸びていないのか、変化の要因を分析する必要がある。何が足りないのか、どこを強化しなければならないのか、目標総生産額だけでは効果的な施策を打てないのではないか。
- ・世羅ブランドについて、6年間で方向性が定まっていない。認定をもらっても意味がない。その辺の基本、何を基準にしていくのか固めていくことが大事ではないか。

## (2) 基本目標Ⅱ 世羅町の魅力と立地を活かし新たな人を呼び込む

### 【評価と今後の方針】

#### 全体

目標値を上回る項目は、全体の20%に留まった。達成率70%以上100%未満のものが約6割となっており、一定の評価はできる。新型コロナウイルス感染症の影響により、計画どおりに実施できない状況であったことで、実績に影響が出ているものと考えられる。

全体として評価は低いものの、県内外からの移住の相談や新築住宅戸数は増加しており、移住・定住施策に効果があったものと考えられる。

今後は、関係人口に注目し、若い世代を中心に移住・定住を推進する。そのため20歳～39歳の人口についても実績を追う必要があるものと考え、第2次総合戦略では新たな指標を設定した。

#### 基本施策1 移住に関する総合的な受け入れ態勢の整備

移住相談の件数は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少に転じているが、オンラインを活用した相談の実施などもあり、相談件数は一定数あった。また、自治センターとの連携による空き家の掘り起こしや空き家バンク制度の周知などに努め、移住に関する総合的な受け入れ態勢の整備を進めてきた。

今後、引き続き様々なニーズに応じて、空き家など住宅の確保の支援から移住前・移住時・移住後までの支援に努める。また、若い世代の移住・定住を推進するため、仕事のために町外へ通勤する人に対する支援に取り組んでいく。

#### 基本施策2 快適な住環境の整備

生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図った。

今後、引き続き世羅町への移住・定住の促進を図るため、住宅取得を支援し、生活用水の確保や公共下水道が未整備の地域での生活を促進するため、施設整備の助成を行う。

#### 基本施策3 若者の人材育成と地元定着の推進

学力面や部活等の多様な理由で高校へ進学される中、町内中学生の受験者数自体も減少し、世羅高校への進学率も約50%で推移している状況である。

しかし、若者の人材育成と地元定着の推進は町の将来を担う重要な施策であることから、新たな取組を取り入れつつ事業を継続する。今後、学習環境の支援を行うとともに、奨学金を返還する若年層への支援により、将来の世羅町を担う人材を一人でも多く確保・育成することに

取り組んでいく。

【数値目標の推移】

	基準値 (H26)	単年度 実績値 (R2)	実績値 (H27～R2)		目標値 (R2)	評価
			6年 平均	6年 延べ数		
社会増減数	▲82人 ※1	▲43人	▲76.8人	—	▲32人	C ※2

※1：H26年実績値はH25.1.1～H25.12.31を掲載、H27年以降も同様

※2：目標値がマイナスであるため目標値/実績値平均で計算

【KPIの推移】

	基準値 (H26)	単年度 実績値 (R2)	実績値 (H27～R2)		目標値 (R2)	評価
			6年 平均	6年 延べ数		
基本施策1 移住に関する総合的な受け入れ態勢の整備						
空き家新規物件登録数	15件	13件	17.3件	—	21件	B
成果	計画期間の6年間で、家屋が老朽化する前に資産整理を考えてもらう取組を進め、積極的に空き家物件の登録促進を図ってきた。自治センターとの連携による空き家の掘り起こしや空き家バンク制度の周知に努めた結果、近年、物件登録数は増加傾向に転じた。					
空き家バンク成立件数	10件	13件	8.8件	—	16件	C
成果	新規物件登録数は増加したが、空き家バンク成立件数の目標達成には至らなかった。					
移住相談件数	117件	103件	158.8件	—	160件	B
成果	様々な媒体による情報発信によって、県内外からの相談が増加している。					
基本施策2 快適な住環境の整備						
新築住宅戸数（延べ数）	41戸	65戸	—	396戸	203戸	A
成果	計画期間の6年間で、関連施策を実行し、快適な住環境の整備を進めてきた。結果として新築住宅戸数は増加しており、成果が出ている。					
基本施策3 若者の人材育成と地元定着の促進						
世羅高等学校入学者数	121人	111人	118人	—	160人	B

	成果	令和元・2年度の入学者数が少なく6年平均でも基準値を下回ることとなった。令和3年度の入学者は122人となり、今後も引き続き世羅高校と連携をする中で魅力の向上を図る。
--	----	--

#### 【世羅町総合戦略推進会議からの評価】

「評価できる」10人、「評価できない」0人、「無回答」1人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町外からの移住には、インフラ整備が大事であり、今後の施策に生かすこと。</li> <li>・ 新規の空き家がたくさん掘り起こされており、受け入れ態勢ができています。逆に、低い部分については、分析が必要。</li> <li>・ 高校に関しては、地元から町外、町外から町内へどれくらい来ているか調査が必要。</li> </ul>

### (3) 基本目標Ⅲ 結婚・妊娠・出産から子育てまで充実した生活環境を提供する

#### 【評価と今後の方針】

全体
<p>目標値を上回る項目は、全体の18.2%に留まった。新型コロナウイルス感染症の影響により、計画どおりに実施できない状況であったことで、実績に影響が出ているものと考えられる。</p> <p>厳しい状況の中でも、子育て世代包括支援センターの利用人数や放課後児童クラブ登録者数は増加しており、コロナ禍で子育てのニーズが変化し、柔軟に対応したことで成果を得られた。</p> <p>妊娠・出産・子育て施策では、一定の効果があつたものと考えられる。</p> <p>今後は、現在の流れを踏襲しつつも、結婚・妊娠・出産から子育てまで切れ目ない総合支援体制による、子どもを安心して生み育てられる環境づくりや経済的負担軽減、多様なニーズに対し働きながら育てられる環境を整備するなど、将来の世羅を担う人材を一人でも多く確保、育成できるように努める。</p>

基本施策1 結婚・妊娠・出産から子育てまで切れ目のない総合的な支援の提供
<p>コロナ禍の中で一部事業については開催できない中、「子育て家庭の安心感の醸成」に向けた様々な子育て支援事業を実施し、総合的な支援の提供に努めた。</p> <p>今後、妊娠・出産から子育て支援に関するワンストップの窓口である子育て世代包括支援センター「だっこ」の利用を促進し、妊娠届出時からすべての子育て家庭の把握と定期的な面談や支援により、子どもを安心して生み育てられる環境づくりを推進する。また、結婚を希望する若い世代を支援するため、結婚に向けた出会いの場づくりなど、支援の取組を推進する。</p>

基本施策2 住民同士が支え合う子育ての環境づくり
<p>コロナ禍の中で、感染予防の配慮を行いつつ、親が子育てを助け合える環境づくりに努めてきた。結果として育児を楽しみながら前向きに取り組むことができ、不安解消や虐待防止へつなげることができた。また、ファミリー・サポート・センターでは、自治センターを活用しての預かりや小学校臨時休業などによる放課後児童クラブへの送迎援助を実施し、住民同士が支え合う子育ての環境づくりに努めた。</p>

今後、妊娠期や子育て期において、地域子育て支援拠点や子育てサロンなどで親同士の出会いや交流ができる機会を設けることで、育児の知識やスキルを学ぶだけでなく、安心して子育てができるよう支援する。

**基本施策3 子育ての多様なニーズに対応し働きながら育てられる環境の整備**

コロナ禍の中で、子育てのニーズが変化し、各事業についてそれぞれ課題が生まれている。  
 今後、保護者の多様な就労形態やニーズに対し、多様な保育サービスの充実を図るとともに、小学校に就学している子どもで、その保護者が就労などにより昼間家庭にいない子どもを対象に、放課後などに適切な遊びや生活の場を提供するため、放課後児童クラブの運営を行う。

**基本施策4 生きる力（自立、挑戦、創造）を育む教育の推進**

子どもにとって可能性を広げる授業や、地域の資源を生かした特色ある体験活動を各学校で実施し、世羅町が目指す「豊かな心を育む教育」を推進してきた。  
 今後、コミュニティ・スクールを導入し、学校と地域の連携・協働をさらに進めていく。

**【数値目標の推移】**

	基準値 (H26)	単年度 実績値 (R2)	実績値 (H27～R2)		目標値 (R2)	評価
			6年 平均	6年 延べ数		
合計特殊出生率	1.86	1.20	1.47	—	1.93	B
出生数（延べ数）	122人	60人	—	514人	686人	B
婚姻数	58件	41件	44.3件	—	58件	B

**【KPIの推移】**

	基準値 (H26)	単年度 実績値 (R2)	実績値 (H27～R2)		目標値 (R2)	評価
			6年 平均	6年 延べ数		
<b>基本施策1 結婚・妊娠・出産から子育てまで切れ目のない総合的な支援の提供</b>						
子育て世代包括支援センターの 利用人数	0人	7,180 人	5,181 人※3	—	6,700 人	B
成果	令和元年10月に設置し、集計期間は短いものの、コロナ禍における電話相談や家庭訪問により育児不安解消に努めるとともに、必要な支援を受けられるよう周知・啓発に取り組んだ。また、少人数での助産師や保健師等への相談の場を設定し支援を深め、令和2年の目標を達成することができた。					

出会う場への参加者数	0人	0人	18.8人※4	—	30人	C
成果	出会う場への参加者数は増加していたものの、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、婚活イベントなどを開催することはできなかった。					

※3：子育て世代包括支援センターはR1年度開設のため、2年平均とする。

※4：出会うサポート事業はH28年度開始のため、5年平均とする。

	基準値 (H26)	単年度 実績値 (R2)	実績値 (H27～R2)		目標値 (R2)	評価
			6年 平均	6年 延べ数		
<b>基本施策2 住民同士が支え合う子育ての環境づくり</b>						
ファミリー・サポート・センター提 供会員数	100人	66人	83.3 人	—	125人	C
成果	自治センターを活用しての預かりを実施することができ、会員の選択肢が増えた。活用しやすい方向に進んでおり、地域の子育ての環境づくりの一助を担った。					
子育て情報キッズメルマガ登録会員 数	219人	32人	300人	—	270人	A
成果	子育て情報キッズメルマガ登録会員数は、219人から360人まで増加し、令和2年には目標値を達成した。					
子育てサークル・サロンの開設数 (延べ数)	0	1	—	3	5	C
成果	目標には達していないものの計画期間の6年間で、旧町単位の1ヶ所ずつ開設され、親子が友達づくりや情報交換、悩みを相談しあうなど、住民同士が支え合う子育ての環境づくりに努めた。					
<b>基本施策3 子育ての多様なニーズに対応し働きながら育てられる環境の整備</b>						
未満児保育定員数	128人	154人	159人	—	170人	B
成果	計画期間の6年間で未満児保育定員数を128人から154人とし、待機児童数ゼロを達成した。					
病後児保育利用者数(延べ数)	0人	0人	—	0人	200人	D
成果	病児保育事業のうち、病気治療中や回復期の児童を専用のスペースにおいて、看護師などが一時的に保育をおこなう病後児保育事業は開設できていないが、2か所の認定こども園において、保育中に体調不良となった児童に対し、体調不良児対応型を実施し、働きながら子育てをしている在園児の保護者支援に繋がった。					
放課後児童クラブ登録者数	108人	252人	199人	—	190人	A

成果	計画期間の6年間で放課後児童クラブの登録者数を108人から252人と増やし、目標を達成することができた。					
総児童数に対する放課後子供教室参加児童の割合	33%	6%	15%	—	40%	C
成果	目標値に対して実績値は下回ったが、自治センターを核として地域主体の取組の実現に向けて2地区で調整できた。					

	基準値 (H26)	単年度 実績値 (R2)	実績値 (H27～R2)		目標値 (R2)	評価
			6年 平均	6年 延べ数		
基本施策4 生きる力（自立、挑戦、創造）を育む教育の推進						
世羅町が好きと感じる小・中学生の割合	94%	92.2%	93.1%	—	94%以上	B
夢や目標があると感じる小・中学生の割合	91%	87.6%	90.5%	—	91%以上	B
成果	「主体的な学び」の実現を目指した授業や、地域の資源を生かした特色のある体験活動を各学校で実施し、困難を抱える子どもや保護者を関係機関と連携しながら支援することを通じて、世羅町が目指す「豊かな心を育む教育」を実現できた。					

#### 【世羅町総合戦略推進会議からの評価】

「評価できる」10人、「評価できない」0人、「無回答」1人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仕事をしていて結婚していない人が結構いる。コロナの影響もあるが、実際に結婚してもらい、子どもを産めるか産めないかは家庭の事情もある。ただ、結婚しないと産めないため、婚活に力を入れており、これから、移住や結婚して子どもを産んだりする人が、ちょっとでも増えていけばいいと思う。</li> <li>・ 産んでから子育てを考え、世羅町で子育てをしている家庭は結構いる。一言で出生率が低いからと言って、子どもが少ないかといえばそういうわけではない。</li> <li>・ 合計特殊出生率は近年伸びが低い。他と比べてどうかというと、広島県全体で1.54、数字として少し厳しい。全国平均1.4、広島市1.47と環境が異なる場所と同じになっている。</li> </ul>

#### (4) 基本目標Ⅳ 誰もが安心して暮らせるまちの生活基盤を整備する

##### 【評価と今後の方針】

###### 全体

目標値を上回る項目は、全体の28.6%に留まった。新型コロナウイルス感染症の影響により、計画どおりに実施できない状況であった。せらまちタクシーの利用者は大幅に減少し実績に影響が出ている。

全体として評価は低いものの、健康寿命の延伸や公共施設の総量縮減といった項目は増加しており、施策の効果があったものと考えられる。

質が高く安心して暮らせる生活基盤を整備するためには、ICTの利活用を進め、交通ネットワークや医療体制の充実を図る必要があり、第2次総合戦略では新たな指標を設定した。

###### 基本施策1 自治センターを活用した住民の交流と支え合いの機能の充実

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催を中止した事業が多く目標値を達していない結果となった。

今後、地域共生社会の形成のため、引き続き自治センターを活用した住民の交流と支え合いの機能の充実を図る。

###### 基本施策2 地域公共交通ネットワークの充実

新型コロナウイルスの影響による資金繰り支援や路線バス補助金の概算払いの実施など、交通事業者支援事業として支援金の交付を行った。しかしながら、一部路線については、路線廃止となった。また、せらまちタクシーは、運行時間の拡大に向けて取組を行ったが、ドライバー確保などの問題があり協議が整わなかった。

今後、将来に向け持続可能な地域公共交通維持のため、地域を支える持続可能な公共交通ネットワークの構築に向け、デジタル技術などを活用し、適切な公共交通ネットワークの形成を維持、分かりやすく使いやすい利用環境及び地域に愛され、利用される地域公共交通の実現を図る。

###### 基本施策3 医療・介護提供体制の拡充

新型コロナウイルス感染症の影響で特定検診受診者は減少したが、密にならず実施することができた。

今後、住民が安心して医療を受け続けられる体制を維持するため、公立世羅中央病院との連携を強化するとともに、医師の確保やオンラインでの診療など医療体制の充実を図る。

###### 基本施策4 公共施設等の管理推進

解体1施設、売却1施設、無償譲渡1施設で、計3施設が処分でき、維持管理経費削減と、人口減少に応じた公共施設保有量の縮減に寄与した。

今後、人口減少や厳しい財政状況などを踏まえ、引き続き管理推進を図る。

**基本施策5 住民が地域防災の担い手となる環境の確保**

令和2年1月より消防団応援店事業を開始し、8店舗に応援店登録をしていただき、消防団員としての活動や消防団応援店事業を広く住民の方に周知・理解してもらい、消防団員数の維持につなげている。

今後、事業を継続し住民が地域防災の担い手となる環境の確保に努める。

**基本施策6 広域連携の推進**

町単独では実施が困難な事業についても、連携中枢都市を中核に広域的なメリットを活かして実施することができ、広域連携による取組も一定程度成果をあげたものとする。

今後、地域共生社会も踏まえ広域連携の推進に努める。

**【数値目標の推移】**

	基準値 (H26)	単年度 実績値 (R2)	実績値 (H27～R2)		目標値 (R2)	評価
			6年 平均	6年 延べ数		
小さな拠点の整備 数(延べ数)	0カ所	0カ所	—	5カ所	6カ所	B
健康寿命	男性 77.36歳 (H22) 女性 82.93歳 (H22)	男性 80.19歳 (H30) 女性 82.65歳 (H30)	男性 78.71歳 女性 83.06歳	—	平均寿命の 上昇分を上 回る健康寿 命の上昇 ※5	C ※6

※5 健康寿命は「健康寿命の算定プログラム」による独自試算

※6 男性と女性それぞれ評価し、総合評価を行った

平均寿命：0歳時点で何歳まで生きられるかを統計から予測した「平均余命」のこと

健康寿命：日常生活を制限されることなく健康的に生活を送ることのできる期間のこと

【KPIの推移】

	基準値 (H26)	単年度 実績値 (R2)	実績値 (H27～R2)		目標値 (R2)	評価
			6年 平均	6年 延べ数		
基本施策1 自治センターを活用した住民の交流と支え合いの機能の充実						
自治センターの生涯学習の 参加人数	17,365人	5,595人	16,496人	—	18,200人	B
成果	毎年目標値を上回る実績値で推移していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から利用を中止した時期があり、地域住民による生涯学習、サークルやサロンなどへの事業の参加者が減少した。					
基本施策2 地域公共交通ネットワークの充実						
デマンド交通の利用者数	32,695人	24,022人	28,381人	—	34,656人	B
成果	免許返納者などに対し利用促進を行っていたが、平成28年度に2.8万人に減少しその後の利用者は微増で推移していた。令和元年度から運行車両を増やし利用者の利便性の向上を図ったが、コロナ渦の影響で令和2年度は大幅に減少した。					
基本施策3 医療・介護の提供体制の拡充						
特定検診受診率	42.3% (H25)	45.4% (R1)	45.9%	—	62.0%	B
成果	指標の（法定報告による）健診受診率は、新型コロナウイルス感染症の影響で、前年度に比較して低下している。自治センターを拠点とし集団検診や保健指導を実施した結果、地域単位で健康意識の向上の一助となった。					
要介護認定率	22.0%	21.6%	22.0%	—	22.0%	A ※7
成果	計画期間の6年間で、高齢化が進んでいるものの、一般介護予防事業等の実施により、要介護認定率を維持した。					
基本施策4 公共施設等の管理推進						
公共施設の総量縮減	3.2%	5.9%	4.1%	—	3.2% 以上	A
成果	関連事業を推進することで、公共施設の総量縮減が進んでおり、長期的な維持管理経費の低減の一助となった					
基本施策5 住民が地域防災の担い手となる環境の確保						
消防団員数	675人	661人	668人	—	680人	B
成果	年間を通じて広報活動を実施することにより、消防団員数を維持した。					
自主防災組織の組織率	69%	71.9%	70.8%	—	100%	B
成果	自主防災組織の設立支援により、自主防災組織率は71.9%まで向上した。					

	基準値 (H26)	単年度 実績値 (R2)	実績値 (H27～R2)		目標値 (R2)	評価
			6年 平均	6年 延べ数		
基本施策6 広域連携の推進						
具体的な数値は、各計画の中で設定する	—	—	—	—	—	—
成果	各計画の中で成果の記載を行う。					

**【世羅町総合戦略推進会議からの評価】**

「評価できる」11人、「評価できない」0人、「無回答」1人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通といえば、全国一律バスや鉄道。中山間地域のレベルに落として考えるべきではないか。人口減少は目に見えている。最低10年先を見越した計画をすべきではないか。</li> <li>・デマンド交通利用者減少の背景にある分析を丁寧に行うことで、要因が明らかになり、的確な施策ができるようになるのではないか。</li> </ul>

4 数値目標、重要評価指標実績値及び評価一覧表

基本目標	重要業績指標 (KPI) (単位)	実績値						基準値 (H26) A	単年度 実績値 (R2)	実績値 (H27~R2)		目標値 (R2) C	対目標値 比較(%) B/C	評価
		H27	H28	H29	H30	R1	R2			6年平均 B	6年延べ数 B			
		【数値目標】												
基本目標1 世羅ブランドの確立を囲り仕事の間を創出する	町内総生産額 百万円	41,898	43,141	44,392	63,678	51,939	48,861	40,734	48,861	—	40,734	120%	A	
	基本施策1 創業・事業継承支援、地元業者支援による地域産業の競争力強化													
	創業支援者数(延べ数) 件	6	23	36	55	79	97	5	18	—	81	120%	A	
	創業者数(延べ数) 件	6	14	18	31	45	51	0	6	—	51	100%	A	
	企業立地奨励金交付対象企業数(延べ数) 件	8	10	11	11	12	13	3	1	—	5	260%	A	
事業継承支援者数(延べ数) 件	3	10	12	16	17	19	0	2	—	19	100%	A		
基本施策2 企業誘致の促進														
企業誘致(ICT企業含む)件数(延べ数) 件	0	2	4	5	5	5	0	0	—	5	13	38%	C	
基本施策3 世羅ブランドの確立と観光振興														
世羅ブランド認証付与件数(延べ数) 件	0	0	21	21	21	22	0	1	—	22	60	37%	C	
観光消費額 百万円	2326	2740	2534	2431	2652	1828	1,974	1,828	2,419	—	2,300	105%	A	
「道の駅 世羅」の利用者数 万人	67	83	84	85	96	75	0	75	81.7	—	62	132%	A	
基本施策4 観光情報発信などを一元的に行う仕組みの構築														
入込観光客数 千人	1935	1948	1876	1788	1944	1423	1,295	1,423	1,819	—	1,690	108%	A	
基本施策5 良好な生産環境の保全と多様な資源の活用促進														
ほ場の再整備面積(延べ数) ha	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	200	0%	D	
基本施策6 農業の担い手育成と後継者の確保														
新規就農者数(延べ数) 人	5	10	19	28	35	38	9	3	—	38	60	63%	C	
世羅産業創造大学卒業生数(延べ数) 人	4	8	9	11	13	14	3	1	—	14	31	45%	C	
認定農業者(認定新規就農者含む)(累計) 人	153	147	135	142	138	138	150	0	—	138	210	66%	C	
基本施策7 農業の6次産業化推進保														
6次産業化(認定)支援件数(延べ数) 件	2	4	5	6	7	8	1	1	—	8	2	400%	A	

■ 実績値    — 目標値

基本目標	重要業績指標(KPI) (単位)	実績値					基準値 (H26) A	単年度 実績値 (R2)	実績値(H27~R2)		目標値 (R2) C	対目標値	
		H27	H28	H29	H30	R1			R2	6年平均 B		6年延べ数 B	比較(%) B/C
<b>【数値目標】</b>													
	社会増減数	-20	-84	-47	-85	-91	-43	-82	-43	-76.8	-32	42%	※2
<b>基本目標Ⅰ 移住に関する総合的な受け入れ態勢の整備</b>													
	空き家新規物件登録数	8	6	20	26	29	13	15	13	17.0	21	81%	B
	空き家バンク成立件数	8	4	7	10	11	13	10	13	8.8	16	55%	C
	移住相談件数	135	164	164	183	204	103	117	103	158.8	160	99%	B
<b>基本目標Ⅱ 快適な住環境の整備</b>													
	新築住宅戸数(延べ数)	34	99	186	259	331	65	41	65	-	396	195%	A
<b>基本目標Ⅲ 若者の人材育成と地元定着の推移</b>													
	世羅高等学校入学者数	115	122	129	120	109	111	121	111	118	160	74%	B

※1: H26年実績値はH25.1.1~H25.12.31を掲載、H27年以降も同様  
 ※2: 目標値がマイナスであるため(C/B)で計算

■ 実績値      ■ 目標値

基本目標	重要業績指標(KPI) (単位)	実績値					基準値 (H26) A	単年度 実績値 (R2)	実績値(H27~R2)		目標値 (R2) C	対目標値		
		H27	H28	H29	H30	R1			R2	6年平均 B		6年延べ数 B	比較(%) B/C	評価
<b>【数値目標】</b>														
	合計特殊出生率	2.10	1.77	1.73	1.40	1.41	1.86	1.20	1.47	—	1.93	76%	B	
	出生数(延べ数)	700	190	295	373	454	122	60	—	514	686	75%	B	
	婚姻数	60	55	35	41	34	58	41	44.3	—	58	76%	B	
<b>基本施策1 結婚・妊娠・出産から子育てまで切れ目のない総合的な支援の提供</b>														
	子育て世代包括支援センターの利用人数	7180	89	110	76	77	0	7,180	5,181	—	6,700	77%	B	
	出会うの場への参加者数	50	3	45	16	30	0	0	18.8	—	30	63%	C	
<b>基本施策2 住民同士が支え合う子育ての環境づくり</b>														
	ファミリー・サポート・センター提供会員数	120	89	82	76	77	100	66	83.3	—	125	67%	C	
	子育て情報キッズメルマガ登録会員数	350	244	275	311	328	219	32	300	—	270	111%	A	
	子育てサークル・サロンの開設数(延べ数)	6	1	1	1	2	0	1	—	3	5	60%	C	
<b>基本施策3 子育ての多様なニーズに対応し働きながら育てられる環境の整備</b>														
	未満児保育定員数	180	139	169	162	165	128	154	159	—	170	94%	B	
	病後児保育利用者数(延べ数)	200	0	0	0	0	0	0	—	0	200	0%	D	
	放課後児童クラブ登録者数	300	142	187	222	249	108	252	199	—	190	105%	A	
	総児童数に対する放課後児童教室参加児童の割合	40%	35%	35%	17%	9%	33%	6%	15%	—	40%	38%	C	
<b>基本施策4 生きる力(自立・挑戦・創造)を育む教育の推進</b>														
	世羅町が好きと感じる小・中学生の割合	95.0	95.0	93.0	92.5	93.5	94.0	92.2	93.1	—	94.0	99%	B	
	夢や目標があると感じる小・中学生の割合	94.0	92.0	92.7	89.9	88.4	91.0	87.6	90.5	—	91.0	99%	B	

基本目標Ⅲ 結婚・妊娠・出産から子育てまで充実した生活環境を提供する

※3:子育て世代包括支援センターはR1年度開設のため、2年平均とする  
 ※4:出会いサポート事業はH28年度開始のため、5年平均とする

実績値 目標値

基本目標	重要業績指標(KPI) (単位)	実績値						基準値 (H26) A	単年度 実績値 (R2)	実績値(H27~R2)		目標値 (R2) C	対目標値	
		H27	H28	H29	H30	R1	R2			6年平均 B	6年延べ数 B		比較(%)	
													B/C	評価
<b>【数値目標】</b>														
基本目標 I	小さな拠点の整備数 (延べ数)	カ所	0	2	3	4	5	0	0	—	5	6	83%	B
	健康寿命(男性)	歳	77.36	78.14	78.14	79.11	79.31	80.19	77.36	80.19	—	平均寿命を上昇分を上回る健康寿命の上昇 ※5 (+1.6歳)	84%	B
	健康寿命(女性)	歳	82.93	84.24	84.24	82.2	82.1	82.65	82.93	82.65	—	平均寿命を上昇分を上回る健康寿命の上昇 ※5 (+0.9歳)	14%	D
<b>基本施策1 自治センターを活用した住民の交流と支え合いの機能の充実</b>														
基本目標 IV	自治センターの生涯学習の参加人数	人	17,365	17,362	19,102	19,377	20,175	17,365	5,595	—	18,200	91%	B	
	基本施策2 地域公共交通ネットワークの充実		31,978	28,139	28,018	28,912	29,214	32,695	24,022	—	34,656	82%	B	
	デマンド交通の利用者数	人	42.4	43.1	45.6	48.9	50	45.4	42.3 (H25)	45.4 (R1)	—	62.0	74%	B
<b>基本施策3 医療・介護の提供体制の拡充</b>														
基本目標 V	特定検診受診率	%	22.0	22.6	22.3	21.6	21.7	21.6	22.0	21.6	—	22.0	100%	A ※6
	要介護認定率	%	21.5	21.0	20.5	20.0	21.6	21.6	22.0	21.6	—	22.0	100%	A
	基本施策4 公共施設などの管理推進		7.0	4.9	5.3	5.9	5.9	3.2	3.2	5.9	4.1	3.2	127%	A
<b>基本施策5 住民が地域防災の担い手となる環境の確保</b>														
基本目標 VI	消防団員数	人	675	675	669	673	661	675	661	—	680	98%	B	
	自主防災組織の組織率	%	69.3	69.3	71.5	71.5	71.9	69.0	71.9	—	100.0	71%	B	
	基本施策6 広域連携の推進		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
具体的な数値は、各計画の中で設定する														

実績値 ■ 目標値 —  
 ※5: 平均寿命とは、0歳時点で何歳まで生きられるかを統計から予測した「平均余命」のこと  
 健康寿命とは、日常生活を制限されることがなく健康的に生活を送ることができる期間のこと  
 基準値 6年平均 上昇分  
 健康寿命 男 77.36 → 78.71 +1.35  
 女 82.93 → 83.06 +0.13  
 基準値 R1値 上昇分  
 平均寿命 男 79.80 → 81.4 +1.6  
 女 86.60 → 87.5 +0.9  
 評価  
 男 +1.35(健康寿命)-(+1.6(平均寿命))=-0.25=-0.3  
 女 +0.13(健康寿命)-(+0.9(平均寿命))=-0.77=-0.8  
 達成率  
 男 +1.35(健康寿命)/+1.6(平均寿命)\*100=84%  
 女 +0.13(健康寿命)/+0.9(平均寿命)\*100=14%  
 ※6: 要介護認定率は、目標値以下を目標とするため(C/B)で計算